

学習課題(小学校5年生)

【社会】



<学習内容> 「わたしたちの生活と食料生産」

◆水産業のさかんな地域（教科書 102～109 ページ）について、取組シートやノートにまとめよう。

ことば（教科書 P103）

- (1) つくり育てる漁業には、「養しよく」と「さいばい漁業」があります。それぞれの漁業の特ちょうとどちらにも共通する工夫や努力を、教科書 102～103 ページを参考に調べて、下の表に整理しよう。

つくり育てる漁業	
養しよく	さいばい漁業
・たまごから (①) になるまで (②) などで育ててからとること。	・人間の手で魚や貝のたまごをかえして、川や海に (③) し、 (④) の中で育ててからとる漁業のこと。
限られた (⑤) を守り、(⑥) してとれるようにしている。	

- (2) 魚などの水産物を原材料にして加工し、食品などを生産することを すいさんかこう **水産加工** と言います。「すり身工場」や「かまぼこ工場」が長崎漁港の近くにある理由を教科書 104～105 ページを参考に、自分の考えを書いてみよう。

ことば
(教科書 P105)

- (3) 日本の水産業には、どのような課題があるのでしょうか。教科書 106～107 ページのグラフや本文から調べ、まとめてみよう。

日本の水産業がかかえている課題	関係すること
・1970年代の後半ごろから (①) 漁業の漁獲量が減っている。	・ 200海里水域 が決められた。 ことば（教科書 P106）
・1990年ごろから (②) 漁業と (③) 漁業も減っている。	・魚などの資源が少なくなった。 ・外国から安い魚が輸入されるようになった。
・漁業で働く人が減ってきている。特に (④) 人が少なくなっている。	・漁業ではたらく人を増やす取組をしている。

<保護者による関わり方のポイント> ※可能な範囲でお願いします。

- ・今回の「水産業のさかんな地域」の学習は、以前学習した「米づくりのさかんな地域」の学習と多くの共通点があります。生産者の努力や工夫、価格や費用、抱えている課題など、米づくりなどの農業と比べながら、一緒に考えてみてください。

【やってみよう】◆「水産業のさかんな地域」についての学習をふり返りましょう。

学習したことをふり返って、これからの日本の水産業について、自分の考えをまとめてみよう。

「日本の水産業がかかえる問題」

魚が、なかなか
とれなくなってきている。

漁業で働く人が
どんどん減ってきている。

これからの日本の漁業について考えたこと

何かできる
ことは？

- ・ 養しよく、さいばい漁業を増やしていけば？
- ・ もっと早く魚の群れを見つける機械の開発すれば？

- ・ 漁業の体験イベントを開催すれば？
- ・ 漁業のみりよくをもっと知ってもらう機会をつくれば？

これらをヒントに、自分の考えをまとめてみよう！



かんがえる

①これからの日本の水産業について、教科書 109 ページのゆうなさんやひろとさんのノートを参考にして、考えたことを書いてみよう。
